

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 26 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	28.7	3.2 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	36.1	7.75 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.06 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	34.9	0.21 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0
2号機	循環冷却システム	運転中	23.9
3号機	循環冷却システム	運転中	23.1
4号機	循環冷却システム	運転中	22.7

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/3 10:47 ~ 9/26 9:20 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 13:33 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/26 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}	A系ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

・H26/8/20 ~ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

- ・H26/9/26 多核種除去設備B系については処理運転中だったが、定例サンプリングにおいて、系統水のカルシウム濃度が高いことを確認。現場調査により、クロスフローフィルタ（8B）出口水において、若干の白濁が確認され、当該フィルタから炭酸塩が系統の下流側に流出していることが判明。このため、本日（9/26）15:22、多核種除去設備B系の処理運転を停止。なお、多核種除去設備B系の系統出口水（サンプルタンク入口水）における全ベータ放射能濃度に変動はない。また、多核種除去設備A系については、処理運転を継続している（C系については、クロスフローフィルタの交換作業のため停止中）。現在、原因等を調査中。

クロスフローフィルタ(CFF):後段の吸着塔でストロンチウム吸着を阻害するイオン(マグネシウムやカルシウム等)の炭酸塩を除去するフィルタ

- ・H26/9/27 ~ 増設多核種除去設備B系統についてホット試験開始予定。

< 5. その他 >

- ・8/29 12:45 頃 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材（鉄板高さ 30cm 程度）と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。

なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

< 使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/24) >

- ・セシウム 134: 3.5×10^2 Bq/cm³
- ・セシウム 137: 1.1×10^3 Bq/cm³
- ・コバルト 60: 検出限界値未満(検出限界値: 1.2×10^0 Bq/cm³)

プラントパラメータ(9/24 16:00 現在)

- ・モニタリングポスト : 有意な変化なし
- ・原子炉建屋オペフロ雰囲気線量 : 有意な変化なし
- ・使用済燃料プール水位 : 有意な変化なし
- ・スキマサージタンク水位 : 有意な変化なし

これまでのプール水分析結果、および関連パラメータにおいても有意な変動は確認されておらず燃料破損の兆候は認められていないこと、また、過去の実験結果では、燃料から水中へのセシウムの溶出は1ヶ月経過しても継続するが、溶出速度は10日後に大きく低下することが確認されている。既に発生から10日以上経過していることから、仮に燃料が破損していたとしても、今後、セシウムの溶出が急激に増加しないものと考えられるため、9/25以降、監視頻度を1回/日から1ヶ月間は1回/週とし、その後は1回/月に見直すこととする。なお、監視は瓦礫撤去後も継続し、3ヶ月の間に増加傾向が確認されない場合は、通常の1回/3ヶ月に見直す。

- ・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
 - 4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
 - 7/28 ~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
 - 8/12 ~ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

- ・H26/9/26 12:48 頃 構内の車両サーベイ場において、停車していた車両に別の車両が接触する事故が発生し、接触した車両より油らしきものが滴下していると緊急時対策本部に連絡があった。漏えい範囲は、約 20 cm × 約 20 cm。油らしきものは5秒に1滴程度で滴下していたため、吸着材により処置を実施。13:20 現在、油らしきものの滴下が停止していることを確認。また、滴下した油らしきものは吸着材による処置を完了。なお、停車していた車両の運転手は、念のため救急医療室にて診察を受け、医師の診断結果、救急搬送の必要は無く、治療を終えて退出。

- ・H26/9/23 構内において、高性能多核種除去設備工事に従事していた作業員が9/23午前中、体調不良を訴えたため、登録センター休憩所において休憩後、体調が回復したため退構したが、帰宅中に再度体調不良を訴えたため、救急車で近隣の病院へ向かい同日 14:00 に到着し診察を受けた。診察の結果、さらに検査が必要と判断されたため、同日 14:55 いわき市立総合磐城共立病院に搬送。

その後、いわき市立総合磐城共立病院で診察を受け、1週間程度の入院が必要という診断結果が出た。今回の診断内容については、作業との因果関係は不明だが、現在得られている当日の作業内容、累積線量、作業期間から判断すると、放射線被ばくとの関連性は、極めて低いと考えられる。

[地下水バイパス揚水井の状況]

・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

[H4, H6 エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上